

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201336
法人名	株式会社 シンコー
事業所名	ハートフルケアホーム あけぼの
所在地	今治市室屋町6-1-9
自己評価作成日	平成 26 年 9 月 29 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 10 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 『あんたらがものがいよいよけん』と言って頂けるよう職員一人一人が心がけている 『近くに来たけん顔見に来たんよ』といって頂けるよう『アットホーム』を心がけている 一人一人の生活暦等をよく知り、個々が力を発揮できるよう、職員と入居者さんが助け合いながら生き生きと生活できるよう努めている 元気で歩けるよう『生活の中のリハビリ』で筋力UPしている 3つの”さ”5つの”あ”を心がけている 入居者様・家族様に感謝の気持ちを持って接する事に心がけている 地域の方々とのつながりを大切に、より連携を図れるよう努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設8年が経過し、経験を活かしたアットホームな事業所は開放的で、知人や近隣住民が気軽に立ち寄れる雰囲気となっている。事業所では毎日2回体操を行い、利用者の健康維持に努めているほか、日常生活の中でもリハビリを重視しており、一人ひとりの残存能力を活かして洗濯や調理、掃除等の作業の役割を持ってもらい、生きいきとした生活を送ることができている。職員は常に利用者のことを「自分だったら、自分の親だったら」と置き換えて考え、利用者に寄り添いながら1日1回は利用者と一緒に笑うことができるような支援に努めている。また、敷地内は広く菜園でとうがんやかぼちゃ、アスパラ等を栽培しており、野菜づくりを楽しみにしている利用者もいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ハートフルケアホーム あけぼの

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)
氏名 越智 美春

評価完了日 26年9月29日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 常に理念・目標を頭におき、サービスの全てがそこに向かうように取り組んでいる。申し送り時に声に出して言う事で共有している</p> <p>(外部評価) 今年度、職員間で話し合い理念の見直しを検討したが、継続して使用する結論に至っている。法人理念と事業所独自の理念を玄関や事務所に掲示し、職員一人ひとりが確認し実践できるよう努めている。また、事業所の年間目標を作成しているほか、職員一人ひとりの目標も作成しており、年1回職員アンケートを実施し理念や目標の振り返りをしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所の独居の方が『来さしてーねえ』と来設され入居者さんと話したり『今日は何か買う物ある?』とホームの買い物に行って下さり『来さしてもらいよんやけんこれ位さしてえ』と言って下さる。その方の事で民生委員さんや包括の担当職員さんと関わる機会がふえている。</p> <p>(外部評価) 知人や近隣住民が「車を止めさせてほしい。散歩途中で立ち寄った」など気軽に事業所を訪問してくれ、利用者の買い物を代行することもある。定期的に踊りのボランティアの訪問があり、利用者は楽しみにしている。以前利用していた独居の方の訪問があるなど、地域住民が自由に頻繁に出入りしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方が数名参加して下さっている。研修で学んだことを議題にして話し合ったり、家族様が研修に参加し学んだ事を話して下さるので、毎回色々な支援方法を発信させてもらっている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価) 職員も一人会議に参加している。内容を一語一句記録し、職員全員が読むようにしている。いつでも見れるように決められたところに置いてある。参加した職員は感想を書きそれも職員が読むようにしている</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、民生委員、市担当者等の参加を得て開催している。会議では利用者の様子や事業所の活動報告を行うほか、避難訓練や誤嚥などテーマを決め、参加者と話し合いをしている。ボイスレコーダー使用し作成した書面の介護記録は、参加者の生の声をそのまま記録に残し、参加できなかった方など自由に閲覧できるようにしている。また、会議には職員も交代で参加し、話し合った内容は会議記録を回覧するなど周知を図っている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 推進会議に参加して頂きその場で確認したり、わからない時はTELや直接窓口に行き相談・報告している。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の利用状況や取組みを報告し、情報交換をしている。サービス料金の過誤請求があった時には、直接窓口に出向き相談している。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 日中は自由に出入りできるよう玄関を開けている。家族さんと相談したり、自分にされて、言われて嫌な事はしないようにしている。場面場面で考えながら本人それぞれの思うようなケアの取組みはしている。</p> <p>(外部評価) 社内研修や自主的に勉強を行い、アンケート形式で理解度の確認を行うなど、職員は身体拘束をしないケアに努めている。利用者への声かけに気を配り、乱暴にならないような言葉づかいをしている。気になる行為や言動があった場合には職員間で注意し合ったり、話し合いをして改善に繋げている。外出しようとする利用者には、ゆっくり話を聞くことで落ち着いて過ごせるよう対応している。日中玄関は開放しており、屋外で転倒した場合があったが、家族と話し合いGPSを付けてもらい自由な外出を支援している。また、帰宅願望の強い利用者には、家族の協力を得て週1回自宅などに外泊し気分転換してもらっている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日頃のケアを振り返り場面場面で虐待になっていないか？話し合いながら防止に努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強する機会を設けており制度を活用している入居者様はいるが、職員全員が理解できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が説明し納得して頂ける様努めている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者さんには年2回要望を聞きケースにつけ全職員が把握できるようにしている。また家族様にも渡すようにしている。家族様（決まった方ではあるが）は推進会議に参加して頂き外部者へ表出できる機会を設け、遠方の家族様は来設時に要望を聞くようにしている。	
			(外部評価) 家族の面会時には職員から声をかけ、利用者の様子を報告し、意見や要望を聞いている。利用者から日々の生活の中で意見や要望を聞くこともあり、記録して職員全員が確認し共有している。また、年2回、利用者の話を傾聴する機会があり、意見や要望を聞くこともある。出されて意見は検討し反映できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 自分の意見や思った事、感じた事等言う機会をもらっている。常に近くにおいて何かあれば報告・相談するようにしている。アンケートをとり個々に対する考え思い等答えてもらっている</p> <p>(外部評価) 朝夕の申し送り時に、職員は管理者に意見や提案を伝えることができる。職員から出された提案を反映し、年2回職員にアンケートを実施し、業務や利用者の対応で困っていること、プライベートの悩みなどを提出してもらい把握している。職員から出された意見は、管理者がまとめ業務に反映している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務希望等なるべく全員の希望にそえるよう努めている。向上心を持って働きやすい職場環境だと思います</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修に参加し他施設の方と交流したり、レポート提出・資料閲覧し皆が勉強できる機会がある。また日々のケアの中で解らない事、できていない所は指導をしてくれたり『こうしてみたら?』とアドバイスもしてくれる</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 交流会や研修に参加し他施設の方と話、良かった所や行えそうな事を報告し質の向上に取り組んでいる</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) “入居後”私の姿”を全職員が聞き本人の思いを聴くようにしている。入浴時や夜間帯等聴いた事は、情報提供書に記入し皆が共有できるようにし、信頼関係が築けるよう努めている</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) よく話し合い要望を聴くようにしている。家族様にも私の 姿を記入して頂き信頼関係が築けるよう努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 本人・家族様より頂いた情報から必要としている支援を提 供させて頂ける様努めている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 『なんでもする事があったら言うてよ！あんた大丈夫か無 理知られんよ』の言葉を頂いたり『私あんた大好きよ』と肩 を揉んで下さったり他者の介助を手伝って頂いている。それ ぞれが出来る力を発揮され、私達が助けて頂いている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 病院受診・外出等家族様の都合に合わせて協力して頂いて いる。週1回の外泊もして下さり本人の思いを大切にされて いる	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 前施設の職員さん、親戚、知人の方が来設して下さり自室 でゆっくりすごして頂いている。一緒に写真を撮らせて頂き 施設内に掲示させてもらったり、写真つきの葉書（自身に文 面や宛名書きをして頂き）送ったりしている (外部評価) 利用開始時に、家族に利用者の「私の姿です」という書類に 書いてもらい、馴染みの関係を把握している。利用者との信 頼関係ができてくると、日々の生活の中で馴染みの関係や場 所を聞くこともあり、新たに把握した内容は追加して記録 し、職員全員が確認し共有している。孫に記念写真を送付し たことをきっかけとして、面会につながった利用者もあり、 それを機に自筆での手紙のやり取りをするようになり、喜ば れている。また、タクシーを呼んで、馴染みの美容院に一人 で出かける利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) それぞれの関係性を考えテーブル席の配置をしている。トラブルになった時は配置変えしたり、1.2階の方が一緒にレクリエーションや作業したり利用者さん同士が関わり支えあえるように努めている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 以前入居されていた近所の独居の方の来設『遊びに来させてえね』その方のケアマネさんや民生委員さんとの連携、県外の息子さんが帰省された時の駐車、介護保険手続き、他施設入所の問い合わせ、ご逝去のお知らせと思い出の写真のお渡し等これからの関係へつなぐ事ができるように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 全職員が「私の姿」を記入しケースにつけている。また一人一人日々の生活の中で会話や表情をそのまま記録し、個々の意向の把握に努めている (外部評価) 日常生活の様子や会話の中から利用者一人ひとりの思いや意向をくみ取り、把握するよう努めている。年2回、利用者一人ひとりとゆっくり話せる機会を設け、希望等を聞いている。思いの把握が困難な利用者には、職員が簡単に答えられる問いかけを工夫して意思確認したり、日頃の様子や表情から感じ取ったりするなど、利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にご本人・家族様・関係者より情報をうかがっているが、一緒に生活しながらご本人より話して頂いたり家族様から話して頂いた事は記録し全員で共有できるよう努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタルチェック・生活記録・支援経過等細かく記録するよう心がけており、日々の些細な変化も見逃さないよう変わった事があれば（報・連・相）申し送り・申し送りノートで現状把握できるように努めている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日頃から変化があると「報・連・相」している。またご本人・ご家族様からの情報を収集し、全職員が6ヶ月毎にモニタリングし、課題とケアのあり方も1人1人があげたものを作成者がまとめ介護計画書を作成している	
			(外部評価) 利用者の思いや意向を把握して家族の要望を聞き、管理者と介護支援専門員が話し合い、介護計画を作成している。毎日サービス実施状況をケアチェック表に記録し、毎月、利用者毎の担当職員がまとめている。6か月に1回、職員全員でモニタリングを行い、見直しをしている。また、状態に変化があった場合にはその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 本人の言葉・表情等日々の様子や変化等、生活記録・支援経過・ケアチェック表に細かく記録、気づきがあれば報告し情報を共有して計画書の見直しに活かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご本人・ご家族様の状況・希望に応じて通院、外出等柔軟な対応ができるよう努めている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 毎月踊りのボランティアさんが来て下さり衣装〔着物・舞〕一緒に踊らせて頂いたり歌を口ずさんだりと楽しまれている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) ご本人・ご家族様の希望を大切にかかりつけ医を決めても らっている。施設の協力医療機関を係りつけにされている入 居者さんは施設長同行で月1回受診し状態の変化等報告・相 談している。協力医以外の受診は家族様にお願いし受診前後 の報告行い情報の共有をしている。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て継続し て受診することができる。協力医は夜間など緊急時の対応や 入院も可能であるため安心感があり、利用者や家族が希望し てかかりつけ医を協力医に変更する場合もある。受診は家族 の同行を基本としているが、状況に応じて職員が受診介助を する場合もある。心療内科受診は初診のみ利用者本人に受診 してもらい、2回目以降は職員が利用者の様子などを報告 し、内服薬を処方してもらっている。診療内容は家族や病院 から報告があるなど情報を共有しており、必要時に適切な医 療を受けることができている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護師の配置はないが、いつもと様子が違う時は施設長に 報告、かかりつけ医に相談し指示をもらっている</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院された時は医療機関、家族様と情報交換し相談させて 頂き早期退院できるよう努めている。施設の協力医療機関を かかりつけ医にされている方は早い段階で家族様と相談し、 いざと言う時にはお願いできる関係作りに努めている</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 契約時にホームでどこまでできるか?の説明はさせて頂い ている。本人の意向は『私の姿』で伺う様にしている。状態 の変化がある時は早い段階から家族様に報告し、段階をおっ て話し合いをしている</p> <p>(外部評価) 看取りはしない方針であることを入居時に利用者や家族に十 分に説明し、理解を得ている。事業所の体制を考慮し、利用 者が歩行できなくなった場合や、医療処置が必要になった場 合には事業所での対応の限界と考へ、早い段階から利用者や 家族と話し合い、要望や意向を確認している。早めに特別養 護老人ホームを利用する申し込み手続きを取ってもらった り、病院や施設等を紹介したりするなど、利用者がスムーズ に転居できるよう努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急講習は受けているが定期的ではない。ヒヤリハット(事故)時は全員が反省点・今後の対策を考えている。対応の仕方が解らない時は都度施設長の指導・本を読んだり実践力が身につくように努めている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 担当を決め日中・夜間想定避難訓練を実施している。(天候により出来ない時期もある) 地域の方の協力により今年も地域の方に参加による避難訓練ができた (外部評価) 毎月、出火場所を変更して昼間と夜間を想定した避難訓練を、利用者全員が参加して実施している。訓練後には職員は報告書を提出し、課題を考え直すなど防災意識を高めている。運営推進会議で災害対策について話し合い、年1回地域住民の参加協力を得て訓練を実施し、その後、利用者の誘導や避難場所などの意見交換をしている。また、地域住民には緊急連絡網にも入ってもらい協力体制を築いている。地震発生時には、消防署の指導により事業所の2階を避難場所としている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 3つの”さ” さわやかに さらりと さりげなく ”自分だったらどんな?”を常に頭に置き尊厳や人格の尊重に気をつけ一人一人それぞれその場にあった言葉がけ対応が出来るよう心がけている。。職員間気になる言動があれば話あいお互いが注意しあうようにしている。 (外部評価) 「さわやかに、さらりと、さりげなく」という3つの「さ」を頭文字にした行動目標を作成し、利用者を職員自身や職員の家族に置き換えて考え、サービスを提供するよう努めている。特にトイレ介助時や更衣時には必ずドアを閉めるなど、さらりとさりげなく職員一人ひとりが気を配り、プライバシーを損ねない声かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ”ご本人が思いや希望したい事が” 言いやすい” よう「何でも言ってね。また教えて下さいね」と声かけするようにしている。言い表しにくい方は思いに寄り添いながらくみ取り日々の関わりを大切にさせて頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合や忙しさを理由にせず待つていただく時は「今〇〇しよるけんすんだら、〇分したら」と納得して頂けるよう声かけし(優先順位を考え)相手に納得して頂ける様にご本人のペースに合わせて支援させて頂くよう心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人がその日の服を選んだり外出前に着替えたり口紅をつけたりとその人らしく身だしなみやお洒落ができるよう心がけている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 見た目から”美味しそう”と思えるような調理、盛り付けを！と食欲がでるように気をつけている。野菜の下ごしらえ等それぞれの力に合わせ協力して頂き、入居者さんと職員が協同で行えるようにしている。	
			(外部評価) 調理専属の職員を配置し、利用者の好みを考慮して献立を立てている。調理は1階の調理場で一緒に調理し、ユニット毎に炊飯と配膳をしている。食事の下ごしらえや食器洗いを利用者が一緒に手伝っている。食べやすいよう利用者に合わせた食事形態にも対応している。料理の見た目食欲をそそるような色合いを考え、野菜を中心にした薄味の調理をしている。利用者一人ひとりの食事の摂取量に合わせて盛り合わせ、楽しんで食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 本人の希望や状態により、食事量の増減をし、バランスのよい食事が摂れる様心がけている。それぞれにあわせ”きざみ”にしたり、食事介助させて頂いている。水分量はチェック表で確認し1日1500cc摂れるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 1日3回出来ない方は介助により、職員が磨き直しさせて頂いたり、その人にあった支援方法でさせて頂いている。ポリデンとは毎晩行い入れ歯は朝まではずしてもらっている。夜間できない方は昼食後ポリデンしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) チェック表をつけ一人一人の排泄パターンにあわせトイレでの排泄が出来るよう支援させてもらっている。ご本人の表情や言動に注意をはらいサインを見逃さないようにしさりげなく声かけしている。日中・夜間で使う種類を変えたりしている</p> <p>(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄チェック表で排泄パターンを把握し、誘導してトイレで排泄できるよう支援している。夜間のみオムツを使用している利用者もいるが、日中は紙パンツを使用し、トイレで排泄支援をしている。利用者をトイレに誘導することにより、失禁など失敗の回数が減ってきている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 野菜中心の食事(繊維の多い食物)牛乳・野菜ジュースの摂取、腹部マッサージや適度な運動をし便秘予防に取り組んでいるが服薬が必要な方もいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 体調不良時以外は毎日入浴してもらっている。気持ちよく入って頂ける様仲の良い人同士誘いあい一緒に湯船につかる方もいる。職員の勤務人数の関係で午前の入浴になっている。</p> <p>(外部評価) 朝7時半から入浴することができ、希望に応じて毎日楽しみながら入浴する利用者もいる。気の合う利用者同士と一緒に入浴する場合もある。入浴は利用者と職員が1対1で、ゆっくり話をしながら湯船に浸かっている。入浴を嫌う利用者には無理強いをせず、他の利用者と一緒に入浴できるよう誘い合ったり、時間を置いて声をかけたりする工夫をしている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 居室・自席・ソファ・窓際と個々の思う場所で思うようにすごしてもらっている。夜間自室で安心して眠れない方は家族様と相談させて頂きフロア畳で休まれている方もいる。また眠れない方は職員と一緒に過ごして頂き本人のタイミングで眠れるよう支援している</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬情を個々のファイルにつけいつでも確認できる。薬の変更時は言動・行動を観察記録し医師へ報告し薬の調整をもらっている。変更時は申し送りや申し送りノートに書き把握できるようにしている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 1人1人の生活歴、今までできる力を活かして張り合いのある日々を過ごせるよう努めている。ドライブ時の嗜好品、夕食時の飲酒は本人・家族様と相談し楽しんでいただけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出(散歩)、買い物、カーブス、外泊等家族様にご協力して頂いている。 (外部評価) 家族の協力を得て、日頃から事業所周辺を散歩したり買い物に出かけたりしている。家族が送迎し、週1回外泊を楽しんでいる利用者もいる。また、週3回リハビリなどの体操教室に出かける利用者もおり、家族の協力で外出する機会が多い。また、敷地内は広く日当たりもよく、玄関にイスを置き外気に触れ、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族様と相談し、娘婿さんとの外出時は本人に¥1000渡し買い物を楽しまれている。個人で新聞をとられている方は小銭をもっておられ、新聞を取り込んでくれた他者に¥100渡しその方が施設長の机に¥100置いている。財布のお金が少なくなると「これがないよ」財布見せ「何ぼいる」本人が「¥500」と渡している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時電話かけてもらっている。遠方の家族様より手紙が届いた時は写真つきの葉書に本人の名前を書いてもらったりして送っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 日中自然の風・光が入るようカーテン、窓の開閉に気をつけている。季節の野菜を使ったり、飾り付けをし居心地よく過ごせるよう工夫している	
			(外部評価) リビングは広く、日当たりがよく明るい。共用空間の壁には利用者が描いたぬり絵や行事の写真が飾られ、テーブルには季節の花が飾られている。階段には利用者の様々な写真を貼り、利用者自身の写真を探しながら階段を昇降するなど、生活の中でリハビリにも繋がっている。また、敷地内に畑があり、とうがんやかぼちゃ、アスパラ等を栽培しており、野菜づくりを楽しみにしている利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 独りになりたかったり休みたい時は部屋で過ごしたり、玄関や赤椅子に座ったり、気の合う者同士で過ごしたり、1.2階の方が自由に行き来されている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に『使い慣れた物』を『入居者様・家族様の思う部屋に』とお願いし、本人・家族様が心地よく過ごせるようにしてもらっている。	
			(外部評価) 居室はベッド、整理タンス、洗面台が常備されている。利用者は使い慣れた寝具やタンス、テレビ等を持ち込んでいるほか、ぬいぐるみや話す人形、位牌等、馴染みのものを持ち込むなど、居心地の良い空間づくりをしている。生活習慣に合わせてものを配置し、安心して過ごすことができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室入り口の名前(目線の位置に) トイレ・風呂等表示している。夜はトイレの電気をつけ解りやすいようにしている	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201336
法人名	株式会社 シンコー
事業所名	ハートフルケアホーム あけぼの
所在地	今治市室屋町6-1-9
自己評価作成日	平成 26 年 9 月 29 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 10 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・「3つのさ」「5つのあ」を常に頭におき、入居者様・家族様が『この人がいたら安心できる』という存在になれるよう努力している ・職員1人1人が明るく・楽しく入居者様と生活できている。 ・開放感があり落ち着く空間でゆったりと生活されている ・殆ど毎日ドライブに行っている ・毎日入浴され清潔保持に心がけている ・1人1人が「出来る事」「解る事」を活かして色々な事をして頂きやりがいのある生活ができている ・毎日運動や作業をし生活の中で出来るリハビリに心がけている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設8年が経過し、経験を活かしたアウトホームな事業所は開放的で、知人や近隣住民が気軽に立ち寄れる雰囲気となっている。事業所では毎日2回体操を行い、利用者の健康維持に努めているほか、日常生活の中でもリハビリを重視しており、一人ひとりの残存能力を活かして洗濯や調理、掃除等の作業の役割を持ってもらい、生きいきとした生活を送ることができている。職員は常に利用者のことを「自分だったら、自分の親だったら」と置き換えて考え、利用者に寄り添いながら1日1回は利用者と一緒に笑うことができるような支援に努めている。また、敷地内は広く菜園でとうがんやかぼちゃ、アスパラ等を栽培しており、野菜づくりを楽しみにしている利用者もいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ハートフルケアホーム あけぼの

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 越智 美春

評価完了日 26年9月29日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念・自身の年間目標・ホームの年間目標も常に頭におき、共有し振り返りながら実践している</p> <p>(外部評価) 今年度、職員間で話し合い理念の見直しを検討したが、継続して使用する結論に至っている。法人理念と事業所独自の理念を玄関や事務所に掲示し、職員一人ひとりが確認し実践できるよう努めている。また、事業所の年間目標を作成しているほか、職員一人ひとりの目標も作成しており、年1回職員アンケートを実施し理念や目標の振り返りをしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所の独居の方が『来さしてーねえ』と来設され入居者さんと話したり『今日は何か買う物ある?』とホームの買い物に行って下さり『来さしてもらいよんやけんこれ位さしてえ』と言って下さる。その方の事で民生委員さんや包括の担当職員さんと関わる機会がふえている。</p> <p>(外部評価) 知人や近隣住民が「車を止めさせてほしい。散歩途中で立ち寄った」など気軽に事業所を訪問してくれ、利用者の買い物を代行することもある。定期的に踊りのボランティアの訪問があり、利用者は楽しみにしている。以前利用していた独居の方の訪問があるなど、地域住民が自由に頻繁に出入りしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方が数名参加して下さっている。研修で学んだことを議題にして話し合ったり、家族様が研修に参加し学んだ事を話して下さるので、毎回色々な支援方法を発信させてもらっている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 職員も一人会議に参加している。内容を一語一句記録し、 職員全員が読むようにしている。いつでも見れるように決め られたところに置いてある。参加した職員は感想を書きそれ も職員が読むようにしている</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、民生委員、市担当者等 の参加を得て開催している。会議では利用者の様子や事業所 の活動報告を行うほか、避難訓練や誤嚥などテーマを決め、 参加者と話し合いをしている。ボイスレコーダー使用し作成 した書面の介護記録は、参加者の生の声をそのまま記録に残 し、参加できなかった方など自由に閲覧できるようにしてい る。また、会議には職員も交代で参加し、話し合った内容は 会議記録を回覧するなど周知を図っている。</p>	<p>会議への参加者が固定化しているため、多方面から参 加を呼びかけることを期待したい。テーマに沿って参 加者との話し合いをしているが、サービスの向上に繋 がる会議となることを期待したい。また、詳細な会議 記録となっているが、誰が見ても分かりやすく、参加 できなかった方にも関心を持ってもらえるような工夫を した記録となることを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 推進会議に参加して頂きその場で確認したり、わからない時 はTELや直接窓口に行き相談・報告している。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の利用状況 や取組みを報告し、情報交換をしている。サービス料金の過 誤請求があった時には、直接窓口に出向き相談している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日中は自由に入出りできるよう玄関を開けている。フロア 入り口はチャイムが鳴るようにし自由に入出りできるように している。</p> <p>(外部評価) 社内研修や自主的に勉強を行い、アンケート形式で理解度の 確認を行うなど、職員は身体拘束をしないケアに努めてい る。利用者への声かけに気を配り、乱暴にならないような言 葉づかいをしている。気になる行為や言動があった場合には 職員間で注意し合ったり、話し合いをして改善に繋げてい る。外出しようとする利用者には、ゆっくり話を聞くことで 落ち着いて過ごせるよう対応している。日中玄関は開放して おり、屋外で転倒した場合があったが、家族と話し合いGPS を付けてもらい自由な外出を支援している。また、帰宅願 望の強い利用者には、家族の協力を得て週1回自宅などに外 泊し気分転換してもらっている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 声かけには注意している。出来てない職員には指導し言葉の虐待になってないか？他の職員にも確認し自身も振り返りを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強する機会を設けているが、職員全員が理解できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が説明し納得して頂ける様努めている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者さんには年2回要望を聞きケースにつけ全職員が把握できるようにしている。また家族様にも渡すようにしている。家族様（決まった方ではあるが）は推進会議に参加して頂き外部者へ表出できる機会を設け、遠方の家族様は来設時に要望を聞くようにしている。	
			(外部評価) 家族の面会時には職員から声をかけ、利用者の様子を報告し、意見や要望を聞いている。利用者から日々の生活の中で意見や要望を聞くこともあり、記録して職員全員が確認し共有している。また、年2回、利用者の話を傾聴する機会があり、意見や要望を聞くこともある。出されて意見は検討し反映できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 自分の意見や思った事、感じた事等言う機会をもらっている。常に近くにおいて何かあれば報告・相談するようにしている。アンケートをとり個々に対する考え思い等答えてもらっている</p> <p>(外部評価) 朝夕の申し送り時に、職員は管理者に意見や提案を伝えることができる。職員から出された提案を反映し、年2回職員にアンケートを実施し、業務や利用者の対応で困っていること、プライベートの悩みなどを提出してもらい把握している。職員から出された意見は、管理者がまとめ業務に反映している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 出来るだけその人にあった希望になるようにシフトを組み働けるようにして頂いている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 内外の研修の機会がある。施設長もシフトに入っているのので、解らない事は施設長に気軽に聞けたり、出来ていない事はその場で指導してくれる。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 交流会や研修に参加し他施設の方と話し、良かった所や行えそうな事を報告し質の向上に取り組んでいる</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居後前職員がセンター方式（私の姿）で要望を聴くようにしている。入浴時や夜間帯等日々の会話の中から本人の要望等を把握し信頼関係が築けるように努めている</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) よく話し合い要望を聴くようにしている。家族様にも私の 姿を記入して頂き信頼関係が築けるよう努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 本人・家族様より頂いた情報から必要としている支援を提 供させて頂ける様努めている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 『かまんよ』と洗濯を干し、それを下に干しに行く方、食後 食器を洗う方、それぞれが来る力を発揮され、協力しながら 私達が助けて頂いている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 買い物・法要・受診等家族様の都合に合わせ協力して頂い ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 親戚・知人の方の来設、馴染の散髪屋さんに行かれてい る。お孫さんに写真入の年賀状や暑中見舞いの葉書（文章や 宛名を自身に書いて頂き）を出したりしている。 (外部評価) 利用開始時に、家族に利用者の「私の姿です」という書類に 書いてもらい、馴染みの関係を把握している。利用者との信 頼関係ができてくると、日々の生活の中で馴染みの関係や場 所を聞くこともあり、新たに把握した内容は追加して記録 し、職員全員が確認し共有している。孫に記念写真を送付し たことをきっかけとして、面会につながった利用者もあり、 それを機に自筆での手紙のやり取りをするようになり、喜ば れている。また、タクシーを呼んで、馴染みの美容院に一人 で出かける利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 関係性を考えテーブル席の配置をしている。それぞれが落ち着く方、場所で過ごされている。1.2階の方が一緒にレクリエーションや作業したり利用者さんが同士が関わり支えあえるように努めている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入居されていた方の奥さん(近所に住んでいる独居の方)が『顔見に来たよ』と来設されたり、遠方に住んでいる息子さんが帰省された時は「車を止めさせて下さい」と来設して下さいお母さんの相談をして下さり、これからも支援させて頂ける様努めている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 全職員が「私の姿」を記入しケースにつけている。また一人一人日々の生活の中で会話や表情をそのまま記録し、個々の意向の把握に努めている	
			(外部評価) 日常生活の様子や会話の中から利用者一人ひとりの思いや意向をくみ取り、把握するよう努めている。年2回、利用者一人ひとりゆっくり話せる機会を設け、希望等を聞いている。思いの把握が困難な利用者には、職員が簡単に答えられる問いかけを工夫して意思確認したり、日頃の様子や表情から感じ取ったりするなど、利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に本人・家族様より情報を伺っているが、日々の生活の中で入居者さん同士の会話、家族様、入居者さんとの会話の中で知った事は記録し全職員が共有している	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタルチェック・生活記録・支援経過等細かく記録するよう心がけており、日々の些細な変化も見過ごさないよう変わった事があれば（報・連・相）申し送り・申し送りノートで現状把握できるように努めている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日頃から気になることがあるとすぐに話し合い意見交換している。またご本人・ご家族様からの情報を収集し、全職員が6ヶ月毎にモニタリングし、介護計画書を作成している	
			(外部評価) 利用者の思いや意向を把握して家族の要望を聞き、管理者と介護支援専門員が話し合い、介護計画を作成している。毎日サービス実施状況をケアチェック表に記録し、毎月、利用者毎の担当職員がまとめている。6か月に1回、職員全員でモニタリングを行い、見直しをしている。また、状態に変化があった場合にはその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 本人の言葉・表情等日々の様子や変化等、生活記録・支援経過・ケアチェック表に細かく記録、気づきがあれば報告し情報を共有して計画書の見直しに活かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご本人・ご家族様の状況・希望に応じて通院、外出等柔軟な対応ができるよう努めている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 毎月踊りのボランティアさんが来て下さり衣装〔着物・舞〕一緒に踊らせて頂いたり歌を口ずさんだりと楽しまれている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) ご本人・ご家族様の希望を大切にかかりつけ医を決めても らっている。施設の協力医療機関を係りつけにされている入 居者さんは施設長同行で月1回受診し状態の変化等報告・相 談している。協力医以外の受診は家族様にお願いし受診前後 の報告行い情報の共有をしている。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て継続し て受診することができる。協力医は夜間など緊急時の対応や 入院も可能であるため安心感があり、利用者や家族が希望し てかかりつけ医を協力医に変更する場合もある。受診は家族 の同行を基本としているが、状況に応じて職員が受診介助を する場合もある。心療内科受診は初診のみ利用者本人に受診 してもらい、2回目以降は職員が利用者の様子などを報告 し、内服薬を処方してもらっている。診療内容は家族や病院 から報告があるなど情報を共有しており、必要時に適切な医 療を受けることができている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護師の配置はないが、いつもと様子が違う時は施設長に 報告、かかりつけ医に相談し指示をもらっている</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院された時は医療機関、家族様と情報交換し相談させて 頂き早期退院できるよう努めている。施設の協力医療機関を かかりつけ医にされている方は早い段階で家族様と相談し、 いざと言う時にはお願いできる関係作りに努めている</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 契約時にホームでどこまでできるか?の説明はさせて頂い ている。本人の意向は『私の姿』で伺う様にしている。状態 の変化がある時は早い段階から家族様に報告し、段階をおっ て話し合いをしている</p> <p>(外部評価) 看取りはしない方針であることを入居時に利用者や家族に十 分に説明し、理解を得ている。事業所の体制を考慮し、利用 者が歩行できなくなった場合や、医療処置が必要になった場 合には事業所での対応の限界と考へ、早い段階から利用者や 家族と話し合い、要望や意向を確認している。早めに特別養 護老人ホームを利用する申し込み手続きを取ってもらった り、病院や施設等を紹介したりするなど、利用者がスムーズ に転居できるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急講習は受けているが定期的ではない。ヒヤリハット(事故)時は全員が反省点・今後の対策を考えている。対応の仕方が解らない時は都度施設長の指導・本を読んだり実践力が身につくように努めている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 担当を決め日中・夜間想定避難訓練を実施している。(天候により出来ない時期もある)地域の方の協力により今年も地域の方に参加による避難訓練ができた (外部評価) 毎月、出火場所を変更して昼間と夜間を想定した避難訓練を、利用者全員が参加して実施している。訓練後には職員は報告書を提出し、課題を考え直すなど防災意識を高めている。運営推進会議で災害対策について話し合い、年1回地域住民の参加協力を得て訓練を実施し、その後、利用者の誘導や避難場所などの意見交換をしている。また、地域住民には緊急連絡網にも入ってもらい協力体制を築いている。地震発生時には、消防署の指導により事業所の2階を避難場所としている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 3つの”さ” さわやかに さらりと さりげなく 1人1人がそれぞれその場にあった言葉がけ対応が出来るよう心がけている。。職員間気になる言動があれば話あいお互いが注意しあうようにしている。 (外部評価) 「さわやかに、さらりと、さりげなく」という3つの「さ」を頭文字にした行動目標を作成し、利用者を職員自身や職員の家族に置き換えて考え、サービスを提供するよう努めている。特にトイレ介助時や更衣時には必ずドアを閉めるなど、さらりとさりげなく職員一人ひとりが気を配り、プライバシーを損ねない声かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 「ご本人が思いや希望したい事が”言いやすい”よう「何でも言ってね。また教えて下さいね」と声かけするようにしている。言い表しにくい方は思いに寄り添いながらくみ取り日々の関わりを大切にさせて頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人1人それぞれのペースで「その人らしく」日々過ごせるよう、出来る限り希望に沿った支援ができるよう努めている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人がその日の服を選んだり外出前に着替えたりその人らしく身だしなみやお洒落ができるよう努めている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 見た目から”美味しそう”と思えるような調理、盛り付けを！と食欲がでるように気をつけている。野菜の下ごしらえ等それぞれの力に合わせ協力して頂き、入居者さんと職員が協同で行えるようにしている。	
			(外部評価) 調理専属の職員を配置し、利用者の好みを考慮して献立を立てている。調理は1階の調理場で一緒に調理し、ユニット毎に炊飯と配膳をしている。食事の下ごしらえや食器洗いを利用者が一緒に手伝っている。食べやすいよう利用者に合わせた食事形態にも対応している。料理の見た目で食欲をそそるような色合いを考え、野菜を中心にした薄味の調理をしている。利用者一人ひとりの食事の摂取量に合わせて盛り合わせ、楽しんで食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 本人の希望や状態により、食事量の増減をし、バランスのよい食事が摂れる様心がけている。水分量はチェック表で確認し1日1500cc摂れるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 1日3回出来ない方は介助により、その人にあった支援方法でさせて頂いている。ポリデンとは毎晩行い入れ歯は朝まではずしてもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) チェック表をつけ一人一人の排泄パターンにあわせトイレでの排泄が出来るよう支援させてもらっている。ご本人の表情や言動に注意をはらいサインを見逃さないようにしさりげなく声かけしている。日中・夜間でパットの種類を変えたり、本人希望で布パンツにナプキンの方もいる	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄チェック表で排泄パターンを把握し、誘導してトイレで排泄できるよう支援している。夜間のみオムツを使用している利用者もいるが、日中は紙パンツを使用し、トイレで排泄支援をしている。利用者をトイレに誘導することにより、失禁など失敗の回数が減ってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜中心の食事(繊維の多い食物) 牛乳・野菜ジュースの摂取、腹部マッサージや適度な運動をし便秘予防に取り組んでいるが服薬が必要な方もいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 体調不良時以外は毎日入浴してもらっている。気持ちよく入って頂ける様タイミングにあわせ入浴されている。職員の勤務人数の関係で午前の入浴になっている。	
			(外部評価) 朝7時半から入浴することができ、希望に応じて毎日楽しみながら入浴する利用者もいる。気の合う利用者同士と一緒に入浴する場合もある。入浴は利用者と職員が1対1で、ゆっくり話をしながら湯船に浸かっている。入浴を嫌う利用者には無理強いをせず、他の利用者と一緒に入浴できるよう誘い合ったり、時間を置いて声をかけたりする工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 居室・自席・ソファ・と個々の思う場所で思うようにすごしてもらっている。夜間自室で安心して眠れない方は家族様と相談させて頂きフロア畳で休まれている方もいる。また眠れない方は職員と一緒に過ごして頂き本人のタイミングで眠れるよう支援している	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬情を個々のファイルにつけいつでも確認できる。薬の変更時は言動・行動を観察記録し医師へ報告し薬の調整をもらっている。変更時は申し送りや申し送りノートに書き把握できるようにしている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 1人1人の生活歴、今できる力を活かさせ張り合いのある日々が過ごせるよう努めている。ドライブ時の嗜好品、夕食時の飲酒は本人・家族様と相談し楽しんでいただけるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出、買い物等家族様にご協力して頂いている。ホームでのドライブ時は入居者様の希望のコースを走ったりしている (外部評価) 家族の協力を得て、日頃から事業所周辺を散歩したり買い物に出かけたりしている。家族が送迎し、週1回外泊を楽しんでいる利用者もいる。また、週3回リハビリなどの体操教室に出かける利用者もおり、家族の協力で外出する機会が多い。また、敷地内は広く日当たりもよく、玄関にイスを置き外気に触れ、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 『これを買いにいきたんよ』とメモ書きを持ってこられた時は預かり金より2,300円渡し1人で買い物に行かれる。帰ったらレシートとお釣りを渡して下さる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時電話かけてもらっている。お孫さんに写真つきの年賀状や暑中見舞い(文面と宛名書きして頂き)を書かれている方もいる。また、携帯電話を持たれている方は自由にかけている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 日中自然の風・光が入るようカーテン、窓の開閉に気をつけている。季節の野菜を使ったり、飾り付けをし居心地よく過ごせるよう工夫している</p> <p>(外部評価) リビングは広く、日当たりがよく明るい。共用空間の壁には利用者が描いたぬり絵や行事の写真が飾られ、テーブルには季節の花が飾られている。階段には利用者の様々な写真を貼り、利用者自身の写真を探しながら階段を昇降するなど、生活の中でリハビリにも繋がっている。また、敷地内に畑があり、とうがんやかぼちゃ、アスパラ等を栽培しており、野菜づくりを楽しみにしている利用者もいる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 独りになりたかったり休みたい時は部屋で過ごしたり、ソファや赤椅子に座ったり、気の合う者同士で過ごしたり、1.2階の方が自由に行き来されている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時に『使い慣れた物』を『入居者様・家族様の思う部屋に』とお願いし、本人・家族様が心地よく過ごせるようにしてもらっている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、整理タンス、洗面台が常備されている。利用者は使い慣れた寝具やタンス、テレビ等を持ち込んでいるほか、ぬいぐるみや話す人形、位牌等、馴染みのものを持ち込むなど、居心地の良い空間づくりをしている。生活習慣に合わせてものを配置し、安心して過ごすことができている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室入り口の名前(目線の位置に) トイレ・風呂等表示している。夜はトイレの電気をつけ解りやすいようにしている</p>	